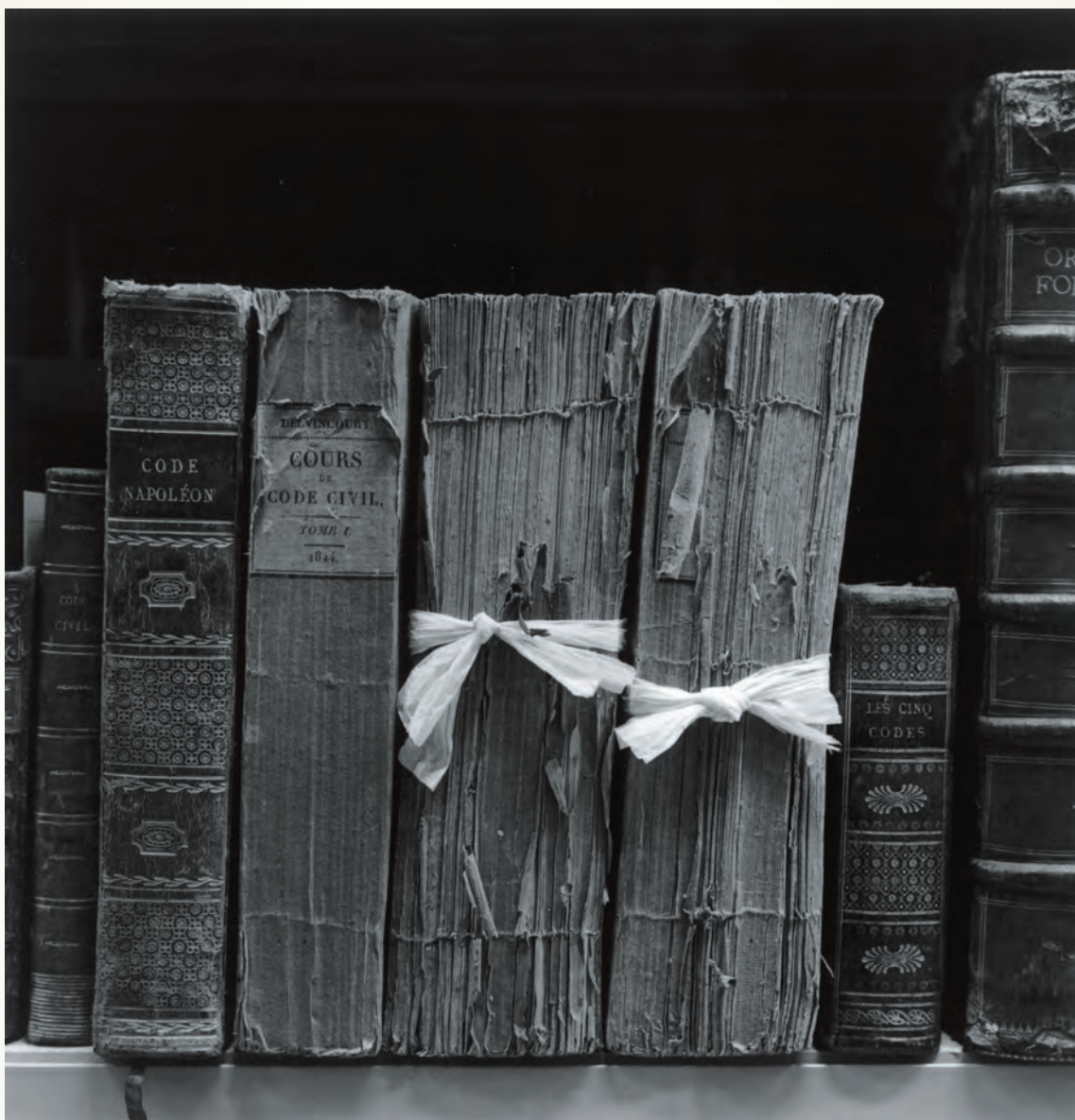


第37回土門拳賞受賞作品展

BIBLIOTHECA

本の景色

潮田登久子



2018年 10月4日(木)～12月24日(月)

(休館日／12月3日、10日、17日)

参加無料
(要入館料)

10月13日(土) 午後2時～
土門拳賞受賞作家
潮田登久子氏
ギャラリートーク

10月4日(木)～10月24日(水)
第13回
「わたしのこの一枚」
写真展

参加無料
(要入館料)

10月27日(土) 午後4時～
ミュージアムコンサート
「深まる秋の音楽会」
オカリナ&エレクトーン ルリアール

同時開催

かおかたち
土門拳の
まなざし

仏像や人物、人形の
多彩な表情を展示します。



秋田点描 1950年代の
往時の秋田。

Ken Domon Museum of Photography

土門拳記念館

山形県酒田市飯森山2丁目13(飯森山公園内)
Tel・Fax 0234-31-0028
<http://www.domonken-kinenkan.jp/>

入館料 一般430円、高校・大学生210円、
中学生以下無料

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
会員券(1年間有効)随時受付・特典あり



第37回土門拳賞受賞作品展 BIBLIOTHECA 本の景色 潮田登久子



受賞作の『本の景色 BIBLIOTHECA』は潮田氏が確かな存在感を放つ古書を追い求め、図書館、古書店、個人の蔵書、出版社の編集室などで撮り続けたもの。自然光のみの撮影、美しい階調に満ちたモノクロのプリントがその本の持つ背景を浮かび上がらせ、見る者を思索の旅へいざなう。



土門拳賞受賞のことば

モノとしての佇まいに惹かれ

1995年から本と本の置かれている環境を主題に、夢中になって撮り散らかし続けて20年以上が経ちました。撮り溜めた写真を、『みすず書房旧社屋』、『先生のアトリエ』、『本の景色』の3つの主題にまとめ、写真集『BIBLIOTHECA シリーズ』として作

ることができました。

本の内容について知りたかったのではなく、造本の美しさ、「モノ」としての佇まいに惹かれ撮影を始めました。

本にまつわる数々について無知の私が、「モノ」として撮影するだけで良いのかという迷いが頭の隅に常にあり、それでも何ともいえぬ力に押され撮影を止めることにはなりませんでした。

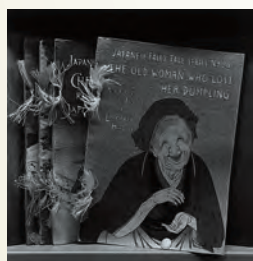
シバンムシが夜空の星屑のように穿ち抜いた室町時代の経

文の修復作業の側では、戦後の貧しい時代の子ども達がむさぼり読んだであろう「サザエさん」も修復中で、子ども時代を思い出しました。痛々しく包帯を巻かれたポロポロの本に驚き、小学1年生が付せ

て、ブロッコリーのようにした辞書に笑い、時代、社会、人々の営みを背景に無限に広がっている「本」の世界の魅力に気づいていきました。

どこへも中型カメラ「ゼンザ

ブローニカS2」(6×6判一眼



潮田登久子 (うしおだ・とくこ)

1940年東京都生まれ。写真家。63年桑沢デザイン研究所卒業。同研究所で写真家・大辻清司の授業を受け、写真家の道に進む。66～78年、桑沢デザイン研究所及び東京造形大学講師。78年よりフリーランス。主な写真集に「Chinese People」(私家版)、「冷蔵庫ICE BOX」(BeeBooks)、「HATSJ」(パルル舎)。「BIBLIOTHECAシリーズ」の「みすず書房旧社屋」(2016年)、「先生のアトリエ」「本の景色」(いずれも17年、3冊とも幻戯書房)を刊行。夫は写真家・作家の島尾伸三。長女は漫画家・エッセイストのしまおまほ。

土門拳賞とは【毎日新聞社主催】

リアリズム写真を確立した巨匠・土門拳の業績をたたえ、1981年(昭和56年)に毎日新聞社により設立された、日本でも有数の権威ある写真賞です。毎年1月から12月までの間に作品(写真集、展覧会など)を発表し、優れた成果をあげた写真家が受賞の対象となり、その受賞作品は土門拳記念館にパーマナントコレクションされます。

かおかたち 土門拳のまなざし

土門拳の撮影技法の特徴のひとつである「クローズアップ」。土門は撮影のために人に、モノに対峙するときにはひたすら凝視しその中から撮るべきポイントを探しました。今回はそんな中で数多く撮影された「顔(かお) 鏡(かたち)」に焦点をあて、仏像や人物、人形の多彩な表情を展示。皆様からのご要望も多い「女優と文化財」シリーズからも一部ご紹介しします。



高見順(小説家1907-1965)



浄瑠璃寺本堂吉祥天立像頭部

秋田点描

元気な農婦たちが手拭いをかぶりながら闊歩し、パーマをあてたこぎれいな女性は今もんべ姿に草履で街角に立つ。1950年代のどかな農村風景や盆地の中心となる街並みは、戦後急激に変化していった東京とは一線を隔した穏やかさが感じられます。1967年に取材した厳寒に生きる木地山こけしの里の姿とあわせて、往時の秋田をご覧ください。



待つ女 秋田

土門拳記念館展示情報

2018年10月4日(木)～12月24日(月)

休館日：12/3、10、17

企画展示室Ⅰ

第37回土門拳賞受賞作品展

潮田登久子「本の景色 BIBLIOTHECA」

モノクロ 50点

本作は潮田氏が確かな存在感を放つ古書を追い求め、図書館、古書店、個人の蔵書、出版社の編集室などで撮り続けたもの。自然光のみの撮影、美しい階調に満ちたモノクロのプリントがその本の持つ背景を浮かび上がらせ、見る者を思索の旅へいざないます。

＜土門拳賞受賞作家 潮田登久子氏ギャラリートーク＞

10月13日(土) 14時～ 参加無料(要入館料)

主要展示室

かお かたち 土門拳のまなざし

カラー・モノクロ 99点

土門拳の撮影技法の特徴のひとつである「クローズアップ」。土門は撮影のために人に、モノに
対峙するときにはひたすら凝視しその中から撮るべきポイントを探しました。今回はそんな中で
数多く撮影された「顔(かお) 貌(かたち)」に焦点をあて、仏像や人物、人形の多彩な表情を展
示。皆様からのご要望も多い「女優と文化財」シリーズからも一部ご紹介します。

企画展示室Ⅱ

秋田点描

モノクロ 22点

元気な農婦たちが手拭いをかぶりながら闊歩し、パーマをあてたこぎれいな女性はもんぺ姿に
草履で街角に立つ。1950年代ののどかな農村風景や盆地の中心となる街並みは、戦後急激に変化
していった東京とは趣の異なる穏やかさが感じられます。1967年に取材した厳寒に生きる木地山
こけしの里の姿とあわせて、往時の秋田をご覧ください。

イベント

第13回「わたしのこの一枚」写真展 10月4日(木)～10月24日(水)

ミュージアムコンサート「深まる秋の音楽会」 オカリナ&エレクトーン ルリアール

10月27日(土) 16時～

土門拳記念館

〒998-0055 山形県酒田市飯森山二丁目13番地(飯森山公園内)

TEL/FAX：0234-31-0028 <http://www.domonken-kinenkan.jp/>